

学報

2015. April

vol. 52

特集 *Special Feature*

学長 細井裕司

入学式・卒業式式辞

新たなる旅立ち

退任のご挨拶

就任のご挨拶



Contents

特集	入学式式辞	3
	卒業式式辞	6
	新たなる旅立ち	9
	退任のご挨拶	10
	就任のご挨拶	11
	平成27年度 公立大学法人奈良県立医科大学予算	12
	法人の新しい組織	14
	奈良医大キャンバスだより創刊	15
看護部門紹介	高度救命救急センター ICU・HCU / 腫瘍センター	16
クラブ紹介	空手道部 / ライブワイヤー	17
図書館だより	語学関連資料のご紹介	18
産学官連携だより	第2回奈良県立医科大学産学官連携シンポジウム ～先端医療技術への挑戦～を開催しました	19
	「メディカルジャパン2015大阪」に参加	20
	ACT japan meets 未来医療交流会で赤羽学准教授が発表	20
大和漢方医学薬学 センターからのお知らせ	第3回大和漢方医学薬学セミナーの開催	20
Campus News	第1種感染症受入訓練を行いました	21
	ヒトゲノム・遺伝子解析研究研修会を開催しました	21
	近畿地方DMATブロック訓練を行いました	21
	奈良医大ゴルフ部創部30周年記念祝賀会を開催しました	22
	研修会「ダイバーシティ(多様性)推進が育む快適職場」を開催しました	22
	横断的メディカルスタッフ研修会を開催しました	22
	チェンマイ大学との交流	23
	「かしはらサイエンスフェスティバル」に参加しました	23
Winner Report	平成27年4月1日付けで3人の先生に名誉教授の称号が授与されました	24
	学位授与の状況	24
	女性研究者支援センターマネージャーの須崎講師が 「国際ソロプチミスト奈良-あすか」女性研究者賞を受賞しました	24
	平成26年度(第22回) 中島佐一学術研究奨励賞受賞者決定	25
	学会等における論文賞等の受賞一覧	25
Information	インフォメーション	26
	平成27年度入学試験を実施しました	26
	学報編集委員会からのお知らせ	27
	レポート	27
	メディア掲載情報・編集後記・広告	28

奈良医大新たな飛躍

学長 細井 裕司

本日、春爛漫の良き日に医学部医学科 113 名、医学科 2 年次編入学生 3 名、医学部看護学科 85 名、合計 201 名の晴れやかな入学生の皆さんを奈良県立医科大学に迎えることができましたのは、私どもの大きな喜びとするところであり、入学生諸君に対し心から「おめでとう」と申し上げますとともに、大学を代表して歓迎の意を表します。

また、入学する学生を今日まで慈しみ、支え、育ててこられた、ご列席のご両親やご家族の皆様に対して心からお慶びを申し上げます。



■ 奈良医大の将来

現在、皆さんは奈良医大に入学できてほっとしているでしょう。しかし、本当に良かったと思いはめるのは、2～3年後です。私の場合は在学中より、卒業後、それも年を経るに従い奈良医大で学べて良かったとの思いがますます強くなってきました。奈良医大はそういうところです。

特に皆さんは奈良医大の歴史上最も輝き、発展する時期に入学されました。荒井奈良県知事をはじめ奈良県の援助を得て、新キャンパスならびに現キャンパス共に、平成 33 年には施設が一新します。

奈良医大は学生数で見れば、小さい大学です。しかし、学生一人当たりの教員数は多く、それだけに学生にとっては、充実した学生生活が送れると思います。

私は、奈良医大本体は小さくても、他の大学、研究機関、関連病院、企業、地方自治体と連携の輪を広げることによって、総合大学に負けない機能を持った大学にしたいと思っています。



■ 固定観念

今日から正式に奈良医大生になった皆さんに望むことは、何事にも固定的な考えでなく、柔軟な思考ができる医療人に育って欲しいということです。

例えば、学年が進んで大学祭の実行委員長になったとしましょう。まず、昨年のプログラムを調べようと思うでしょう。しかし、最初にそれをすると固定観念にとらわれて、新しいアイデアは生まれません。思い込みや固定観念は皆さんの中にある新しいものを創生する能力を阻害します。

固定観念に関する話題を3つ挙げます。



■ 北風と太陽

皆さんはイソップ寓話の一つである「北風と太陽」という話をご存知でしょう。

あるとき、北風と太陽が力比べをしようとする。まず、北風が力いっぱい吹いて旅人の上着を吹き飛ばそうとしますが、かえって上着をしっかりと押さえてしまいます。次に、太陽が燦々と照りつけると、旅人は自ら上着を脱ぎ、太陽の勝ちとなりました。これは物事に対して厳罰で臨む態度と、寛容的に対応する態度の対比を表す言葉として用いられます。

これが「北風と太陽」として有名な内容です。多くの人は「北風と太陽」と言えばこの話だと固定的に捉えています。しかし、別の話もあることはご存知でしょうか。

北風と太陽が行った勝負は最初は旅人の帽子をとることでした。最初、太陽は燦燦と旅人を照り付けると、旅人はあまりにも日差しが強いので帽子をしっかりとかぶり、決して脱ぎませんでした。次に北風が力いっぱい吹くと、みごと簡単に帽子は吹き飛ばしてしまいました。その次に行った勝負は旅人の上着を脱がす勝負でした。この勝負の結果はご存知の通りです。



この別の話の教訓は、何事にも適切な手段が必要である、ということです。一方であまくいったからといって、他方でもうまくいくとは限らない。その逆も然り。目的に合った手段を適切に選ぶべきということです。

■ スマホと独創性

「スマホやめますか、それとも信大生やめますか」。信州大の入学式が4日、松本市総合体育館であり、山沢清人学長は、8学部の新入生約2千人に、こう迫った。山沢学長は、昨今の若者世代がスマートフォン

偏重や依存症になっている風潮を憂慮。「スイッチを切って本を読み、友だちと話し、自分で考える習慣をつけ、物事を根本から考えて全力で行動することが独創性豊かな学生を育てる」と語りかけた。この朝日新聞のセンセーショナルな見だしと記事をご記憶の方もおられると思います。

私は山沢学長の考えは理解できます。その上で、奈良医大の学生に「スマホをやめなさい」というつもりはありません。

2つ理由があります。一つはスマホは「本当に独創性豊かな学生を育てることを阻害しているのか」という疑問があるからです。つまり、そのエビデンスがあるのだろうかという疑問です。皆さんが奈良医大において学ぶのは Evidence-based-medicine です。つまり経験や習わしではなく、証拠に基づいた医学・看護学を学びます。「スマホは独創性豊かな学生を育てることを阻害している」ということの証拠があるでしょうか。どうもそうらしいという固定観念は禁物です。特に患者さんの病態をみるとき、固定観念は危険です。

もう一つは、「スマホは独創性豊かな学生を育てることを阻害している」を真としても、スマホは道具です。北風も太陽もうまく使い分ければ、大いに役に立ちます。使うことが難しいもの程、欠点を知って使いこなせる人になってほしいと思います。

■ 東大、京大の医学部と奈良医大

3つめの固定観念は東大や京大の医学部は奈良医大より将来にわたって上であるという観念です。

東大や京大は長い歴史があり、私が医師になるずっと前から完成し、成熟した大学です。奈良医大はこれから伸びる大学です。また伸びるための準備が整いつつある大学です。皆さんが卒業し、医師や看護師として活躍しはじめるころには、全国の80大学医学部中、最も新しい設備をもった医科大学に生まれ変わります。それを使いこなし、奈良医大創立100年に向けて完成させていくのは今日、ここにおられる皆さん方です。

医学科、看護学科ともに手を携えて、この大学を完成し、東大や京大と肩を並べるようにしてください。人生何が楽しいと言っても、自分の力で、自分達の力で大きく前進する程楽しく、やりがいのあることはありません。

完成された大学ではなく、トップ10をめざして上昇中の大学で自分の力を存分に発揮しようではありませんか。自分が大学の歴史を作ることは、大いにやりがいがあることです。私はそのような気持ちで奈良医大入学から今まで行動してきました。

目標に向かって共に頑張りましょう。

皆さんが充実した学生生活を送られることを祈願いたします。



母校奈良医大は人生最大の財産

学長 細井 裕司

今日の佳き日、奈良県立医科大学医学科を卒業する 103 名、看護学科を卒業する 82 名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんは小学校入学以来、医学科にあつては 18 年間、看護学科にあつては 16 年間、或いはそれ以上の長い学生生活を修了され、ここに医学士、看護学士の学位を得られましたことは誠にめでたく、心からお祝い申し上げます。

これは、何よりも皆さんの弛まぬ努力の結果であります。と同時に、今日まで皆さんを慈しみ育ててこられた保護者の皆様方や、皆さんの人間形成や教育に御指導を賜った教員、並びに関係する皆様のお陰であり、このことに感謝の気持ちを持っていただきたいと思ひます。



■ 本学の理念

奈良医大は本年創立 70 周年を迎えます。奈良医大の卒業に際して、皆さん自身も考えていただきたいことがあります。皆さん自身もと言いましたのは、学長である私にとって、皆さん方以上に大きな責務だからです。それは奈良医大の理念とは何かという課題です。

あなたの理念は何かと問われたとき、皆さんは答えられるでしょうか。自分の存在意義は何なのか、考えたことがありますか。団体、個人を問わず考えなければならない本質的でかつ難しい課題です。

人はわからないときはどうするか、他人はどう考えてきたのかを参考にします。23 の単科医科大学と 21 の総合大学について理念を調べてみました。実はこの手法は、つまり他者をみる手法は良いこともありますが、独創的な発想を阻害することもあります。これから皆さんが医療人として、自己を高めていくとき、研究的態度が要求されます。他者を調



べすぎると、独創的発想が生まれません。しかし、他者を知らない、独善に陥ります。

話を戻して、合計44の大学の理念をみますと、類似のことが順序を変えて並んでいました。理念を簡潔なことばで表現する過程で、本来あったはずの各大学の相異が不明確になっていくのだと感じています。

現時点で奈良医大の理念として最も有力な候補は「豊かな人間性に基づいた高い倫理観と、旺盛な科学的探求心を備え、患者・医療関係者・地域と積極的に交流し、最善の医療を実践する良き医療人の育成を目指します。」というものです。

私は、「良き医療人の育成」に加えて、次のような内容を付け加えたいと思っています。この内容を実際に奈良医大の理念として文章化するかどうかは未定です。しかし、私が理念としたい内容については理解しておいていただきたいと思います。その内容とは、「良き医療人の育成」に加えて、「産業の創生」を奈良医大の理念としたいというものです。医科の単科大学の理念として「産業の創生」は違和感を覚えられる方が多いでしょう。産業の創生とは以下の考え方をシンボリックに表現したものです。

医師や看護師は患者さんが一人来られたら、その一人について、手術あるいは薬物治療など最善の医療を行い、誠心誠意看護をし、病気が治癒して帰っていただきます。次の一人が来られたら、同様に最善の治療、最善の看護を施し、帰っていただきます。医師や看護師は自己の知識や技術をこのように個別的な形で提供することにより、社会に貢献しています。

しかし、医師や看護師は膨大で包括的な医学的知識を持っています。この膨大な知識を一人一人の患者さんに使うだけでなく、世の中の様々な事象の改善、世の中の活性化に積極的に活用していく、そのような気概のある医師、看護師を育てることを理念に加えたいと思っています。つまり自己の持つ医学、看護学の知識を決まった枠の中だけで活用するのではなく、積極的に世の中を良くすることに活用しようという気概のある人になってほしいとの意図を示したいと思っています。



私は最近、塩野七生(しおの・ななみ)さんの『皇帝フリードリッヒ二世の生涯』を読みました。すべてが宗教中心であったヨーロッパ中世において、ローマ法王の破門をものともせず固定観念から脱却する。その合理的思考や国家像は当時の人に理解されませんでした。200年後のルネッサンスを経てヨーロッパの主流となりました。そのため後世の人から、早すぎた近代人、「世界の驚異」と呼ばれていることはご存知の方もおられると思います。

塩野さんの著書の中でいくつかの例が挙げられていますが、大学の理念についてのところを紹介します。フリードリッヒ二世はヨーロッパで初めての国立大学であるナポリ大学を設立したことで知られています。当時の大学は神学と宗教法が中心でしたが、彼は教授陣を世俗の学者で固め、法律、哲学、倫理

学、リベラルアーツ、医学などを教えました。初めての世俗の大学といわれる所以です。ちなみに当時の大学のモットーはボローニャ大学が「ペテロは偉大なる父であり、ボローニャは法律の母である」、オックスフォード大学が「神こそはわが光明（ひかり）」、そしてナポリ大学は「知識と教育の源泉にもどって」でした。

もう私が申し上げたいことはおわかりと思います。先ほど、単科の医科大学の理念として産業の創生に違和感を感じられる方が多いと思いますと言いました。私は違和感がないということは、既成概念の中にあるということだと思っています。私は固定観念を打ち破る気概を持って、世の中に貢献できる医療人としてその存在感を示していただきたいと思っておりますので、医科大学の理念に産業の創生を入れたいと申し上げたのです。

■ 母校奈良医大は人生最大の財産

次いで、財産の話をしていきます。皆さんは医師や看護師の資格を持ちます。これは皆さんの大きな財産となって一生を支えます。今、私は「大きな財産となって」と言いましたが、最大の財産とは言いませんでした。

皆さんの最大の財産は母校奈良県立医科大学です。

人は一人では生きていけません。医師も看護師も一人では良い医療はできません。一生は1回、この最大の財産を最大限に活用して1回しかない一生を有意義に送っていただきたいと思っております。

卒業後は母校奈良医大の臨床研修センターと同窓会が皆さんの財産活用の窓口となります。これからの皆さんは順風満帆な時ばかりではありません。どんなに苦しいときでも、皆さんには母校奈良医大がついています。苦しいときがあっても、奈良医大で学んだことが苦境を救ってくれます。そして、一生を通じてこころの支えとなるだけでなく、医師や看護師としての活動の実質的な支えにもなります。

奈良医大は新たな飛躍の時を迎えます。これから大いなる上昇気流に乗って、皆さんそれぞれが目指す高い理想を達成していくのです。これから奈良医大で研修や勤務を行う人は、周囲の上昇気流を感じることができ、切磋琢磨して自己を啓発していく環境にあります。この環境を生かして、個人個人が個人個人に与えられた一生を思う存分生きていただきたいと思っております。

卒業後奈良医大を離れ、他の機関や他府県で活動していく人には「新キャンパスが完成し、新たな飛躍が始まったときには、必ず帰ってきてください。」とお願いしておきます。キャンパス見学だけでも結構です。その時、自己にとって母校とは何かを考える良い機会になると思っております。

最後に本日旅立たれる皆さんにもう一度、母校奈良医大は皆さんの最大の財産であることを伝えて、式辞といたします。本日は誠にありがとうございます。



今年も 226 名の若き俊英が旅立ちました。本学のみならず、広く日本、そして世界の医療・医学の向上に大きく貢献してくれることでしょう。(226 名：医学科 103 名、看護学科 82 名、大学院医学研究科博士課程 25 名、同修士課程 6 名、看護学研究科修士課程 10 名) また、式の中で、次の賞の受賞者が発表されました。(敬称略)

◆ **奈良県立医科大学学長賞** 医学科 6 年間または看護学科 4 年間の課程で最も優秀な成績を収めた者

医学科：濱田 健吾 看護学科：楠井 梢恵

◆ **奈良県立医科大学学長特別賞** 医学教育の課程において極めて優秀な成績を収めた者

医学科：水田 賢

◆ **医学科同窓会厳檀賞、看護学科同窓会華檀賞**

- ①クラスのリーダーとして顕著な活躍をした者(ヒーローオブザクラス)
- ②ボランティア活動などで社会に特に顕著な功績があった者
- ③クラブ活動など課外活動で特に優秀な成績をあげた者

厳檀賞：若林 拓也 / 西岡 祐一 / 佐藤 玄基 華檀賞：室谷 英里子 / 勝村 律子



医学科
濱田 健吾

この度は学長賞という名誉ある賞を頂き、大変光栄に存じます。

この 6 年間は充実したものでした。入学時より基礎研究者を目指していましたが、高学年になり、実習や講義を通して臨床医学を学んでいくうちに、同級生や先輩、後輩とともに臨床現場で働きたいという気持ちが強くなりました。丁寧にご指導いただいた先生方や切磋琢磨しあえた同級生のおかげで今の自分があるのだと思うと感謝の気持ちでいっぱいです。

4 月からは医師としての人生が始まりますが、臨床現場ではまだまだ使いものにならない研修医だと思います。しかし、数年後には奈良県の医療に少しでも貢献できるような医師になれるよう日々精進に努めていきます。

最後になりましたが、今までお世話になった先生方、先輩、同級生、後輩、そして家族に心から感謝致します。今後ご指導、ご鞭撻の程よろしく願いたします。



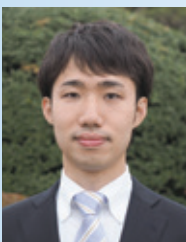
看護学科
楠井 梢恵

この度は学長賞という名誉ある賞を頂き、誠に光栄に存じます。

大学では、講義、演習、課題に実習など勉強の面で大変なことも多かった一方、クラブや仲間との遊びなど楽しく有意義な時も多く、充実した大学生活を送ることができました。これも先生方、実習指導者の方々、受け持ちさせていただいた患者さん、バレー部の先輩、後輩、そして家族など様々な方の支えがあったからこそであり、感謝の気持ちでいっぱいです。また、大学生活を思い返す中で、欠かすことができない存在である同級生にも感謝の気持ちでいっぱいです。看護師を目指す同志として共に助け合いながら課題や実習を頑張っただけでなく、時には学年全体での運動会を開催し楽しい時間を共有するなど、様々な時を同級生と過ごしました。信頼でき、尊敬できる多くの素敵な同級生と出会えたことは私にとって一生の財産であり、今後も大切にしていきたいと思っております。

4 月からは一看護師として働かせていただきますが、この賞に恥じることはないよう、日々精進してまいりたいと思います。常に向上心を持ち、看護師としての知識や技術面での成長に努めることはもちろんのこと、周囲への思いやりの心を常に持ち、様々な方との出会いを大切に、人間的にも成長できるよう努めてまいりたいと思います。

最後になりましたが、今までお世話になった様々な方々にこの場をお借りして、心より御礼申し上げますとともに、今後ご指導、ご鞭撻の程よろしく願いたします。



医学科
水田 賢

この度は、学長特別賞を頂き大変光栄に思っております。私は 1 年次より約 5 年半にわたり先端医学研究機構 循環器システム医科学研究室にて放課後に研究活動を行って参りました。研究により、新規因子の TMEM100 が心臓形態形成において必須の働きを有することを発見し、学会や論文でその成果を発表する機会にも恵まれました。

本活動は決して私ひとりの力で成り立ったものではありません。研究活動の場を提供し熱心にご指導くださいました、中川修先生・坂部正英先生をはじめとする研究室メンバーの皆様にも厚く御礼申し上げます。また、この活動をサポートして頂いた多くの先生方・友人・家族にも深く感謝いたします。

後輩の皆さん、大学のカリキュラムに加え、是非自分が真剣に向き合えるものを見つけ、一生懸命に取り組んでみてください。その中で嬉しい経験をするとともに、苦しい思いをすることも沢山あるかと思えます。しかしながら、投げ出さずに継続することで新たな自分を見つけ、自信につなげることができるはずですよ。

私自身は今後医師としての新たな生活がスタートしますが、奈良医大で学んだことを胸に刻み、邁進していく所存です。今後ともご指導のほどよろしく願いたします。

退任のご挨拶



英語 教授 澤浦 博

退任のご挨拶

私は平成14年4月より、吉田学長、吉岡学長、そして細井現学長のもとで13年間勤めさせていただきました。今年、開学70周年を迎える伝統ある奈良医大の歴史の7分の1余りで、約1300名の優秀な学生と、授業は勿論、春の新生入生歓迎の宿泊研修や秋の野外研修においても接することができました。この間、教授の先生方や職員の皆様には大変お世話になり、誠に有難うございました。

振り返りますと、正に「光陰矢の如し」でした。奈良県庁の知事室で当時の柿本知事から辞令を賜ったのをまるで昨日のこのように記憶しております。その一方で、教授の先生方が次々と定年を迎えられ、大学を去られたこと、また独立行政法人化をはじめ、看護学科の設置、大学院重点化、入試の多様化など様々な改革があったことを思えば、やはり「十年一昔」という言葉も生きているなあ、と実感いたしております。

着任当初、見知らぬ白衣の世界に入り込んで、不安と緊張の連続でしたが、当時の血液学の藤村教授から先生が高校の1年先輩であり、法医学の羽竹教授は後輩であると知らされ、世間は広いようで狭いものだと安堵したことも忘れられません。

私の研究対象は英文学、特に16～19世紀のイギリス演劇ですが、教育においては、本学の教育目標にある「国際化に対応できる語学力」の養成に尽力することを第一の使命と考え、学生諸君が将来、良き医師であるとともに国際感覚溢れる教養豊かな紳士淑女であってほしいと願って

きました。そして、受験英語から脱却し、医学の術用語としての英語および国際コミュニケーションの道具としての生きた英語を習得してもらおうと奮闘してきました。ただ、1回90分という授業時間の限られた、30～60数名のクラスでは、なかなか理想通りにはゆかないのが現状です。そこで、「外国語のあり方検討部会」の答申に私の発案が盛り込まれ、8年前の4月に一般教育棟の2階に「英会話ラウンジ」が設けられました。月曜と金曜の午後4時半から7時半までの都合のよい時間帯に、授業とは違った雰囲気外国人非常勤講師と英語での雑談を楽しみながら、英会話力を磨いてもらおうとしてきました。現在、少数ながら意欲ある人たちが参加しています。将来、海外の大学、研究機関、病院等で活躍してくれるよう期待しています。

最後になりましたが、数年後にはキャンパス移転が予定されており、現学長のMBT構想の実現によって奈良医大が今後益々発展することを心よりお祈りいたしまして、私の退任挨拶に代えさせていただきます。どうも有難うございました。



内科学第三 教授 福井 博

退任にあたって

この度、3月末をもって教授職を退任いたしました。1995年の就任以来、多くの方々に支えられて職務を全うすることができ、感謝いたしております。私が第一に心がけてきたことは地域医療を守り、奈良医大附属病院において奈良県全域において消化器・内分泌代謝領域での責務を果たすことでした。専門分野の急速な進歩による社会的ニーズに出局者数が追いつかず、いまだ道半ばではありますが、強い絆で結ばれた同志たちに恵まれたことは幸いです。また、学内外の信頼できる協力体制も整いましたので、今後の継承・発展に期待いたしたいと思います。この間、人材を育てることがいかに大切かということを実感し、卒後臨床研修センター長を9年間務めさせていただきました。また、学会の役職や仕事をいろいろお引き受けしたのも、奈良医大や教室の求心力を高めたからです。地域の方々からの期待は大きく、良い医療がただちに地域貢献につながるという意味で、奈良は素晴らしいところです。落ち着いた環境で本物の研究を進め、誇りをもって奈良から世界に発信していく喜びを今後も若い世代に伝えて行っていただきたいと願っております。奈良医大の益々の発展をお祈りいたします。



母性看護学 教授 脇田 満里子

退任挨拶

教師生活19年の後、本学助産学専攻に勤務して17年の歳月が流れました。

振り返りますと平成16年に短大から医学部看護学科となり、その中で看護師、保健師そして助産師の3つの資格が取れることとなりました。その後、平成19年に独立行政法人化がなされ、第1期中期目標・計画達成に向けて検討がなされました。さらに看護学科では平成21年にカリキュラム改正がなされ臨床実践能力の高い看護師の輩出が求められました。

また議員立法において保健師と助産師の養成期間を従来の6か月以上から1年以上と改正され、本学でも平成24年から助産師養成を大学院の中で行うこととなりました。従って4大設置、独法化、大学院設置の各2年前から準備や検討委員会に所属し、看護学科の重要な節目に関わらせて頂いたことは、私にとって大きな誇りと自信につながりました。

現在、第2期中期目標達成が着々と進められており、看護学研究科においても2期生が修了し、今春4期生が入学されます。

本学の益々のご発展を祈念してお別れの言葉とさせていただきます。長きに亘り誠にありがとうございました。

就任のご挨拶



臨床英語 教授
Francesco Bolstad

communicate with other medical professionals from around the world. Towards this goal I am currently developing connections with medical schools in my home country (New Zealand) and hope to be able to bring NMU students to study there in the near future.

English study takes time and perseverance, but the rewards are well worth the effort. I hope that many of the students and staff will use this opportunity to visit and talk with me in my offices.

就任挨拶

As the newly appointed professor of clinical English I am very happy to join Nara Prefectural Medical University's (NMU) team. Over the past two weeks I have been overwhelmed by the friendly nature and warm-heartedness of both the students and staff at NMU. I have been pleasantly surprised to be greeted both in English and Japanese wherever I go in the university or hospital. I have also seen that there is a very high level of motivation to speak English throughout the campus. In the future, I look forward to meeting even more of the students and staff of NMU and I hope to be able to repay the kindness that I have been shown.

In my role as head of Clinical English I will work hard to develop a program of English study, which supports all of the students of NMU to improve their Communicative language skills to the highest level. I also want to work with those students, both undergraduate and postgraduate, and staff who have a special interest in English, to give them the opportunity to use English to

就任挨拶

この度4月1日付けで基礎看護学領域の教授に就任させていただきました。

私は看護師として関西の病院で臨床経験を約10年積んだ後、鳥取大学医学部保健学科看護学専攻の開校時期より13年間、看護学士教育に携わってきました。27年度より奈良県立医科大学の医学を基盤とするまちづくりの拡張構想計画時期や医大の移転整備という大きな変化時期に従事できることに感謝申し上げるとともに前向きな思いを強くしております。これから、魅力ある基礎看護学領域をめざして、奈良医科大学の一員として教育や研究に研鑽してまいりますので、どうぞご指導ご鞭撻の程よろしく願い申し上げます。



基礎看護学 教授 **松田 明子**

就任のご挨拶

この度、4月1日付けで母性看護学教授に就任いたしました。本領域は、看護学科における母性看護学教育に加え、大学院看護学研究科の看護学コース・助産実践コースにおいて研究指導ならびに助産師教育を行っております。看護学コースでは助産師資格をもった大学院生も入学しており、助産師の研究力向上に寄与しております。修士課程での助産師教育は、全国的に増加している中、本学は全国で17番目の設置であり、先駆的なカリキュラムを実施しています。近年、厚生労働省等の関連機関から院内助産システムが注目されるなど、正常経過であれば責任をもって妊産褥婦の診断や分娩介助等が行える助産師の専門性を発揮することが求められています。これらのニーズに応え、母性看護学教育の充実ならびに、研究力と高度実践能力を備えた助産師の育成に努めます。また教育・研究・臨床との連携を通して、よりよいお産の追求と、女性と家族の健康に貢献したいと思っております。皆様方のご指導、ご支援をお願い致します。



母性看護学 教授 **五十嵐 稔子**

平成 27 年度 公立大学法人奈良県立医科大学予算

平成 27 年度で 3 年目を迎える第 2 期中期目標の確実な達成、法人の将来を方向づけるキャンパス移転・老朽化施設の改築を円滑かつ早急に進めることを重点的な目標とし、ガバナンス体制の充実強化、PDCA サイクルの着実な実行などによる効果・効率的な法人経営の推進に主眼をおいた予算編成を行いました。

E 病棟整備の第 2 期工事が本格化すること、病床稼働率の向上などによる附属病院収入の大幅な増、それに伴う診療経費の増、人件費の増などにより、平成 26 年度に比べて、収入・支出とも約 106 億円増加し、予算総額が約 483 億円となり、平成 19 年度の法人化以後、最大規模の予算となりました。

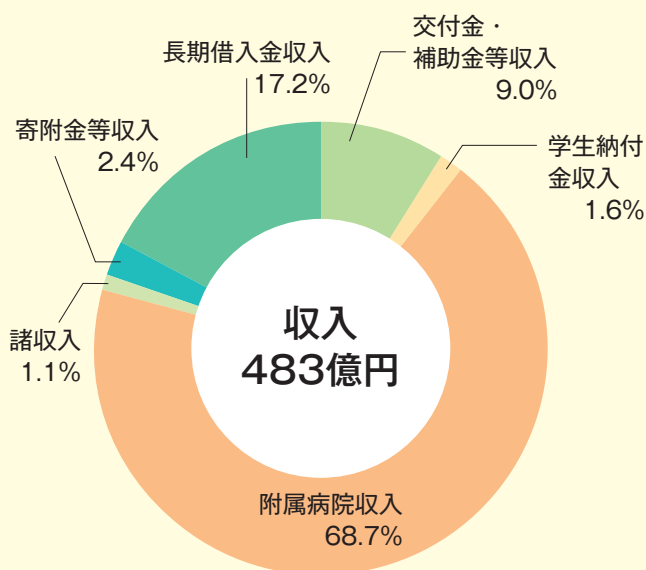
平成 27 年度の主な取り組みとして、教育・研究部門等の新キャンパスへの移転・キャンパス移転後の附属病院整備を進めるため、整備の前提となる本学の「目指すべき将来像」について、県と共同で策定を進めるとともに、「施設整備基本構想」「施設整備プラン」の検討を進めます。また、附属病院の E 病棟の整備を継続するとともに、「MBT 構想」の推進など法人の将来を見据えた取り組みを引き続き行います。

法人の更なる発展のため、中期計画の円滑な遂行、効果・効率的な法人経営の推進について、教職員のみならず、それぞれの分野でのご協力を引き続きよろしくお願いいたします。

平成 27 年度予算の内容

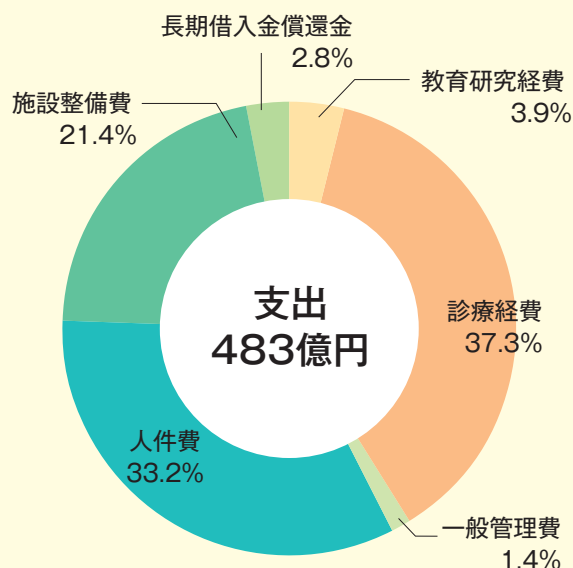
【収入】

項目	予算額	構成比
法人が自ら得た収入 (自己収入)	344.7 億円	71.4%
附属病院の診療報酬等 (附属病院収入)	331.5 億円	68.7%
学生が納付した収入 (授業料・入学金・入学検定料)	8.0 億円	1.6%
その他の収入 (諸収入)	5.3 億円	1.1%
他機関等からの支援 (交付金・補助金)	43.5 億円	9.0%
県からの支援 (運営費交付金等)	24.6 億円	5.1%
国等からの支援 (補助金収入)	18.9 億円	3.9%
職員が集めた収入 (受託研究・寄附金等収入)	11.4 億円	2.4%
借金の借入(長期借入金収入)	83.1 億円	17.2%
収入計	482.7 億円	100.0%



【支出】

項目	予算額	構成比
義務的に支払う必要のある経費 (人件費、償還金)	173.7 億円	36.0%
職員への給与の支払い (職員給与)	156.3 億円	32.4%
退職手当の支払い (退職手当)	3.9 億円	0.8%
借金の返済 (長期借入金償還金)	13.4 億円	2.8%
業務の運営に必要な経費 (業務費等)	205.6 億円	42.6%
大学での教育研究に必要な経費 (教育研究経費)	18.8 億円	3.9%
附属病院での診療に必要な経費 (診療経費)	180.1 億円	37.3%
法人の運営全般に必要な経費 (一般管理費)	6.8 億円	1.4%
施設整備や医療機器購入経費 (施設整備費)	103.4 億円	21.4%
支出計	482.7 億円	100.0%



平成 27 年度予算の 主要事業・新規事業

地域貢献

(適切な医師派遣システムの確立、学生の県内就職率の向上)

- 県立医大医師派遣センターの運営
- 県費奨学生配置センターの運営
県内の医師派遣システムを適切に実行

- 看護実践・キャリア支援センターの運営
14,800千円(H26 25,800千円)
看護学科卒業生の県内定着の促進及び学生・看護師のキャリア支援



- 県民健康増進支援センターの運営
18,800千円(H26 24,500千円)
市町村や県の健康増進事業への協力、予防医学や健康づくりの適切な情報や研究成果を提供

教育部門

(学生生活支援体制の充実、将来を担う優秀な学生の確保)

- 「奈良県立医科大学教育改革2015」の実施
医大の将来像策定会議での議論を踏まえ、教育改革を実施
- 学生アメニティ向上事業
7,100千円(H26 10,700千円)
学生が利用する学内施設設備等の整備や課外活動の支援など、学生生活の向上を図る



研究部門

(研究成果の地域への還元、研究支援体制・研究環境の充実)

- 大和漢方医学薬学センターの運営
10,800千円(H26 11,300千円)
産学官連携による漢方医学の研究等、奈良の産物を生かし、地域に役立つ独自性のある研究を推進
- 奈良県健康長寿大規模コホート助成事業
24,000千円
県内在住者、通学・通勤者、医療機関受診者を対象とした本学教員が行うコホート研究に対し助成

診療部門

(法人の将来を見据えた大規模な投資、患者サービスの向上、病院機能の充実)

- 土日24時間ER体制の実施
県が推進する「断らない救急医療」に寄与するため、土曜日9時から月曜日9時までのER体制を実施

- E病棟整備事業
8,724,900千円(H26 389,000千円)
中南和地域における高度医療拠点病院として機能充実に図るため、新病棟(E病棟)を整備

- MRI整備
206,000千円
県からの長期借入金を財源とし、MRI増設工事を実施

- 医療用備品の整備
927,500千円(H26 1,120,000千円)
県からの長期借入金を財源とし、総額10億円の医療用備品整備枠を確保

まちづくり

(医科大学を中心としたまちづくりの推進)

- 奈良医大MBTコンソーシアム事業の推進
MBT(医学を基礎とするまちづくり)構想実現のため、奈良医大MBTコンソーシアムに関連する事業を推進

- 大学移転推進事業
50,000千円(H26 75,300千円)
医大の将来像、施設整備基本構想、施設整備プランの策定支援を委託



- ゲストハウス整備事業
50,000千円
MBT構想の一環として、橿原市今井町に本学のゲストハウスを整備

管理部門

(法人組織の円滑な運営・福利厚生・事務の合理化の推進)

- 奈良医大プロモーション事業
5,000千円
本学の医療資源や技術、人材などを対外的に広く周知するため、プロモーションビデオ作成や県内外でのイベント等を実施

- 開学70周年記念事業
11,000千円
開学70周年を記念して式典を開催、記念誌を発行

- 募金推進事業
9,700千円
開学70周年記念を契機として、新キャンパスに学友会館機能を含む施設を整備するため募金を開始

法人の新しい組織

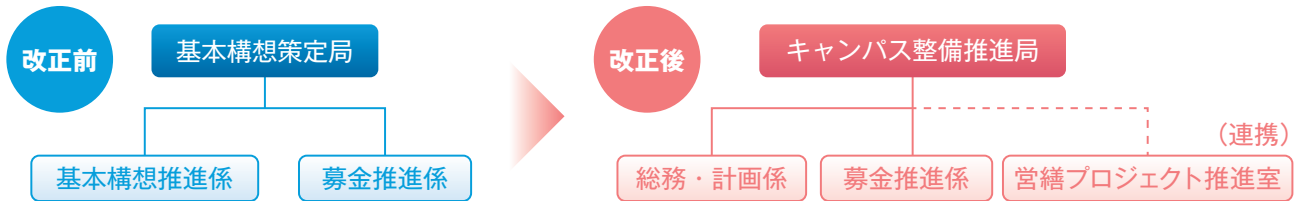
1. 組織編成・人員配置の考え方

- ◆大学移転等基本構想の推進
- ◆内部チェック体制の充実等事務部門の機能強化

2. 主な組織改正

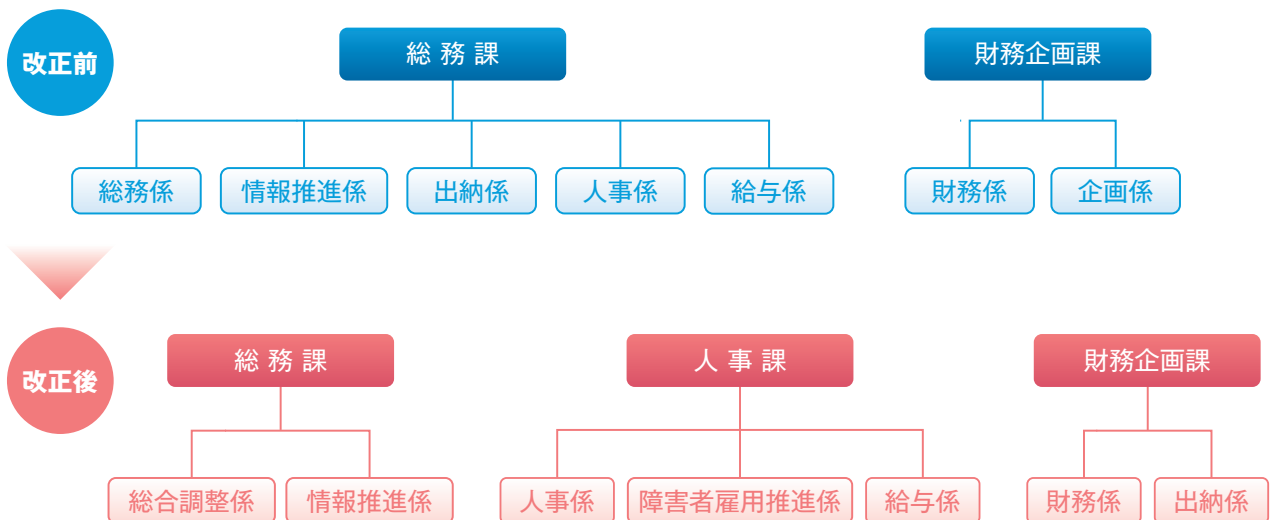
(1) キャンパス整備推進局(基本構想策定局から名称変更)の充実

- ◆教育・研究機能の移転及び病院再整備にかかる基本構想の推進
- ◆中期計画の進捗管理(財務企画課企画係から移管)
- ◆募金活動の本格実施
- ◆キャンパス整備及び医大周辺まちづくり推進に向けた県との連携



(2) 人事課の創設→総務課人事係、給与係を人事課として独立

- 障害者雇用推進、育成及び支援のため、障害者雇用推進係の創設
- 総務課出納係を財務企画課へ編入



3. 事務部門の機能強化

①内部チェック体制の充実

- ・ 監査室に専任職員を配置し、監査機能を強化

②物品購入、検収等の事務の充実

- ・ 研究推進課研究推進係に検収担当職員を配置し、研究費に係る物品検収業務を実施
- ・ 病院管理課用度係において、物品購入効果検証の徹底

③係の名称変更

- ・ 教育支援課 厚生・入試係 → 入試・学生支援係
- ・ 医療サービス課 入院レセ係 → レセプト係
- ・ 地域医療連携室 前方支援係 → 医療機関連携係
- 後方支援係 → 退院調整係



奈良医大キャンパスだより創刊

キャンパス整備に向け地域とのコミュニケーションを深めるため 新たな広報紙を創刊しました

本学から学外に向けた情報発信は、これまで主に学報とHPが担ってきましたが、学報は配布先が限られ、HPは特に高齢者向けには情報リテラシーのハードルがあり、十分とは言えない面がありました。

また、第2期中期計画にも掲げているとおり、本学は、平成33年に教育・研究部門が新キャンパスに移転し、現キャンパスには新しい外来棟や臨床医学棟を整備することとしています。現在、構想・計画づくりを県と共同で進めているところですが、新旧キャンパスの整備は創立以来の大プロジェクトであり、その実現に向け円滑に整備を進めるためには、地域住民をはじめとする学外関係者の理解と協力が不可欠です。

これらのことを踏まえ、今般、地域住民とのコミュニケーションを充実させるためのツールとして、新たな広報紙を創刊することといたしました。そして、これまで地域住民に十分にオープンとは言えなかった本学のキャンパスについて、新キャンパスで体育施設や交流施設など施設面の開放を目指すと同時に、情報面においてもキャンパスのオープン化を図りたいとの思いから、この広報紙を「奈良医大キャンパスだより」と名付けました。

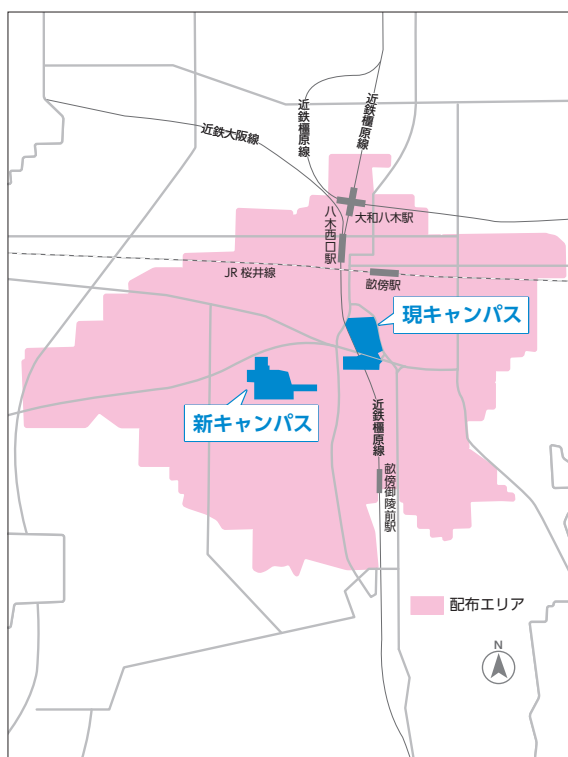
広報紙では、本学のキャンパスをハード・ソフト両面の切り口から情報発信することを目指し、新旧キャンパス整備の方針や具体的内容、進捗状況をはじめ、住民向けの公開講座や附属病院の施設情報などを幅広く紹介していきます。

年2回定期発行し、配布は、地域住民へのきめ細かい情報提供を行うため、近隣大字の各戸（四条町、小房町、兵部町、今井町、南八木町、大久保町、山本町、慈明寺町、寺田町、五井町、八木町、内膳町、北八木町、四分町、城殿町、畝傍町、醍醐町、縄手町、小綱町、大谷町、雲梯町、忌部町の約9,000戸）にポスティングで届けるとともに、附属病院、橿原市役所、万葉ホール等にも配置することとしています。

創刊号では、上記のような記事に加え、理事長・学長から創刊の挨拶として、キャンパス整備に向けた本学の姿勢や意気込みを語っていただいています。その内容は、本学HP (<http://www.naramed-u.ac.jp/index.html>)でも紹介していますので、ぜひ一度ご覧ください。



「奈良医大キャンパスだより」創刊号



配布エリア

高度救命救急センター ICU・HCU

救命救急センターとは、急性心筋梗塞・脳卒中・頭部外傷など複数診療科領域の重篤な患者さんに対して高度な医療技術を提供する三次救急医療機関です。なかでも、高度救命救急センターは特に高度な診療機能が必要とする広範囲熱傷や四肢切断、急性中毒などの特殊疾病患者に対して救急医療を提供しており、全国に32か所しかありません。

当センターはICU 10床、HCU 24床で構成され、ICUは2:1、HCUは4:1の看護体制をとっています。救命センター全体で70名以上の看護師が配属されており、救急看護と集中ケア看護の認定看護師がそれぞれ1名、呼吸療法認定士が10名所属しています。救急医療の場面では幅広い知識とアセスメント能力に加え、質の高い看護技術やコミュニケーション能力、リーダーシップが必要とされ、より専門性の高い看護ケアを提供できるよう所属内での勉強会や伝達講習を企画運営しそれぞれのスタッフが日々自己研鑽に努めています。

また、高度救命救急センターでは重篤・重傷な患者さんに高度な医療を提供するため、人工呼吸器や透析機器、人工心肺装置など最新の医療機器がそろっているのも特徴で、臨床工学技



士など他職種との連携が重要となります。

平成25年度からはPreventable Trauma Deathといわれる防ぎえた外傷死を減らすことを目的として、ドクターカーへの看護師の同乗が開始されており看護活動が病院内だけでなくプレホスピタルまで拡大しています。

救命センターに従事する看護師としての自覚と責任感を持ち、看護部理念でもある「人間を愛する心とかけがえのない命を大切に」という思いを忘れずより質の高い看護が提供できるように努めています。

腫瘍センター

看護部腫瘍センターは、放射線治療科外来・放射線治療室・アイソトープ検査室・外来化学療法室からなる所属で、がん診療に深くかかわっています。現場では専門性の高い治療や検査が行われており、看護師にも専門的な知識と技術が求められます。

がんの病態や治療内容を理解し、そこから起こりうる問題を予測した上で治療に伴う副作用症状のマネジメントや患者さんのセルフケア支援などを行うとともに、患者さんが安全・安楽に治療や検査が受けられるようなシステムの検討や環境調整、関連部門との調整を行っています。また、患者さんは身体的苦痛のみならず治療の決定や治療継続へのゆらぎ、見通しが見えないことへの苦悩、役割遂行の困難さなど心理・社会的な苦悩も抱えており、それに対して意思決定支援や生活面へのアプローチ、自己や環境のとらえ方への支援を行っています。日常の業務では多職種との連携や協働が必須であり、互いの考え方やスケジュールなどの調整に苦慮する場面もありますが、目標の共有や円滑なコミュニケーションを意識して奮闘しています。

このように複雑で困難な状況に直面することもあります。スタッフが間で課題や感情を共有したり、明るく笑い合ったりすることで日々の活動へのエネルギーを得て、患者さんの療養生活の質が向上するような看護を提供できるように努めています。



何事にも真剣に

現在、2020年東京オリンピック・パラリンピックで空手道を正式種目に採用しよう、というはたらきが盛んに行われています。その旗印の一人である宇佐美里香さんと同じ、糸東流という流派で奈良県立医科大学空手道部も稽古に励んでいます。

空手道部は週3回、医大体育館や晩成小学校体育館で練習しています。決められた演舞を行う「形」、寸止めのポイント制で突き、蹴りを出し合う「組手」の2競技を行っています。土日祝日はほとんど部活の予定が入ることがなく、自主練や勉強、アルバイトに各自精を出せる、メリハリのあるクラブです。

部員のほとんどが大学から空手道を始めた初心者ですが、学年が上がるにつれて他校の経験者とも互角に試合ができるよう成長していています。道場の先生や先輩方に教わり、夏の西医体に向けて日々精進しています。



空手道部

- 部員 ▶ 20名
- 顧問 ▶ 小林浩(産婦人科教授)
- 主将 ▶ 本橋和也(医学科4年)
- 練習日 ▶ 月、水、金

やりたいことを やりたいときに

ライブワイヤー部は文字通りライブ活動をする部活で、具体的には年に2、3回行う定期演奏会や夏休みの大講堂ライブに向けて、自分達のやりたい曲を好きなメンバーでバンドを組んで練習しています。練習日は特に決まっておらず、部室を好きな時に予約して使うと言った感じで、割と自由な感じの部活です。なので、他の部活と兼部してもそれほど負担にならないし、実際兼部している人がほとんどで、色々な人と交流できるということもこの部活の良い所の一つです。

また、外部との交流も盛んで、他大学(主に医歯薬系)とのジョイントライブも沢山あり、ゴールデンウィークには2日ばかりで開催される医薬連ライブという体育会でいうところの西医体の様なものもあります。他大学のライブを観たり、一緒にバンドを組んでライブをすることで刺激を受け、日々の活動のモチベーションの向上にも繋がっています。

経験者も初心者も関係なく、音楽が好きな人達が集まり、自分達のやりたいことをやりたいときに思いっきりやれることがライブワイヤー部の最大の魅力だと思います。



ライブワイヤー

- 部員 ▶ 81名
- 顧問 ▶ 桑原理充(形成外科センター長)
- 主将 ▶ 米村正嗣(医学科4年)
- 練習日 ▶ 毎日可能です

語学関連資料のご紹介

みなさんは USMLE をご存知ですか？アメリカ版医師国家試験のことです。Step1、Step2、Step3 があり、臨床留学で研修を受けるには Step1 と Step2 の合格が必須です。図書館に対策本がいくつかありますが、基本的に複本がないので最新刊は予約待ちになることもしばしば。せっかく読もうと思ったのに本がないとがっかりしますよね。そんな USMLE の勉強がもっとしたいという方に朗報です。このたび本学のグローバル化を目指し、オンライン問題集「USMLE EASY」が導入されました。「USMLE EASY」は、一度学内で登録すればご自宅の PC でも利用できます。問題の内容や難易度を自分用にカスタマイズする機能や、コメントを入力するメモ機能がついているので、自分のレベルに沿ったオリジナル問題集として使えます。また、iPad などのタブレットにも対応しています。

【アクセス方法】

1. 初回時のアクセス

(1) <https://www.usmle-easy.com/institution> へアクセス
(※学内限定)

(2) アカウントを作成

2. 二回目以降のアクセス

USMLE EASY (<https://www.usmle-easy.com>) へアクセスし、「Sign in」よりログイン

【マニュアル】

http://www.naramed-u.ac.jp/lib/manual/USMLEEasy_UserGuide_Mar2015.pdf

4月14日(火)の夕方に「USMLE EASY」の説明会を開催しますので、そちらにもぜひご参加ください。

今回の「USMLE EASY」導入に伴い、図書館の「語学・国試コーナー」の図書も充実させました。今回追加したのは、USMLE 関連本や TOEFL・IELTS など英語対策本です。臨床留学だけでなく、英語を使って海外の人と直接コミュニケーションを取りたい、英語で論文を書きたいという方々にも使ってもらえる本がたくさんありますので、ぜひご覧ください。ラインナップは以下のとおりです。なお、E-BOOK は電子ブックのことで、図書館ホームページからご覧いただけます。

1 USMLE

- ・ USMLE step 2 CK Qbook (490.79-Usm)
- ・ USMLE step 1 Qbook (490.79-Usm)
- ・ CS Checklists : portable review for the USMLE step 2 CS (490.79-Csc)
- ・ USMLE step 2 CS core cases (490.79-Usm)
- ・ First aid for the USMLE step 2 CS (490.79-Fir)
- ・ First aid for the international medical graduate (490.79-Fir)
- ・ First aid for the USMLE step 1 2015 (490.79-Fir)

2 TOEFL

- ・ The official guide to the TOEFL test (830.79-Ets)
- ・ ETS 公認ガイド TOEFL iBT (830.79-Ets)
- ・ TOEFL テスト完全攻略スピーキング (830.79-Kan)
- ・ TOEFL テスト完全攻略ライティング (830.79-Kan)
- ・ TOEFL テスト完全攻略リスニング (830.79-Wad)
- ・ TOEFL テスト完全攻略リーディング (830.79-Wad)

3 IELTS

- ・ Complete IELTS, Bands 6.5-7.5 (830.79-Bar)
- ・ IELTS strategies and tips (830.79-Bar)
- ・ IELTS practice exams : with audio CDs (830.79-Bar)
- ・ Barron's IELTS : International English Language Testing System (830.79-Bar)
- ・ IELTS Practice tests plus 3 : with key (830.79-Iel)
- ・ The official Cambridge guide to IELTS for academic & general training (830.79-Cam)
- ・ Cambridge IELTS 8 (830.79-Cam)
- ・ IELTS 学習法と解法テクニック (830.79-Coh)
- ・ IELTS 実践トレーニング (830.79-Kim)
- ・ 新セルフスタディ IELTS 完全攻略 (830.79-All)
- ・ Cambridge IELTS 9 (830.79-Cam)
- ・ Cambridge vocabulary for IELTS with answers (830.79-Cam)
- ・ Cambridge vocabulary for IELTS, Advanced (830.79-Cam)
- ・ Writing skills (830.79-Mcc)
- ・ Essential words for the IELTS (830.79-Lou)

4 医療英会話

- ・ 医療スタッフのための英会話ハンドブック (490.7-Lin)

5 E-BOOK (Maruzen eBook Library)

- ・ 留学&ホームステイのための英会話
 - ・ からだの英語集中マスター：フレーズで覚える解剖学用語と表現
 - ・ 医学・生物学研究者のための Powerful Vocabulary (1) 動詞活用講座
 - ・ 医学・生物学研究者のための Powerful Vocabulary (2) 形容詞・副詞活用講座
 - ・ 医学・生物学研究者のための Powerful Vocabulary (3) 英語論文用語集
 - ・ 聞いて覚える英単語キクタン TOEFL test 頻出編 (付録の CD はついていないため聞けません)
- ※ E-BOOK は「図書館ホーム>オンラインリソース> Maruzen eBook Library」でアクセスできます。1冊につき1ユーザーですので、閲覧終了後は必ず「閲覧終了」ボタンをクリックしてください。

語学・国試コーナーは図書館2階閲覧室南側の闘病記文庫裏になります。上記以外にもたくさんありますので、ぜひご利用ください。

第2回奈良県立医科大学産学官連携シンポジウム ～先端医療技術への挑戦～を開催しました

1月22日(木)に本学臨床第一講義室において(独)科学技術振興機構のご後援を得て「第2回奈良県立医科大学産学官連携シンポジウム～先端医療技術への挑戦～」を開催しました。本学は、教育・研究・診療に加え地域への貢献



文部科学省 塚本室長補佐

を目指しています。今回のシンポジウムは、これまで取り組んできた産学連携の成果「先端医療技術」を外部に発信・更なる産学官連携の推進を目的として、(独)科学技術振興機構 齋藤仁志執行役のご来賓のもと、文部科学省 科学技術・学術政策局 産業連携・地域支援課 大学技術移転推進室 塚本英則補佐より「今後の産学連携施策について」ご講演をいただいた後、26年度に新たに採択された以下のプロジェクトの紹介を行いました。



(独)科学技術振興機構 齋藤執行役

①平成26年 A-STEP 探索タイプ 採択課題

「体位センサーを搭載したアクチグラフ睡眠計・自由行動下血圧計の開発」

地域健康医学講座 佐伯 圭吾講師



地域健康医学講座 佐伯講師

②平成26年 A-STEP ハイリスク挑戦タイプ (復興促進型) 採択課題

「微量元素をマーカーとする子宮内膜症の悪性化を早期予測する方法の確立」

産婦人科学講座 小林 浩教授・発表者 吉元(植栗)千陽助教



産婦人科学講座 吉元(植栗)助教

③平成26年 A-STEP ハイリスク挑戦タイプ 採択課題

「耳石器(重力センサー)が原因のめまいを診断する平衡機能検査装置の開発」

耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座 和田 佳郎特任講師



耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座
和田特任講師

学内外より総勢90名の方が参集され、企業関係者の来場も多く、本学の医工連携の成果発表だけでなく、多くの企業との出会い・交流の場ともなりました。今後この成果を社会に還元出来る日も近いのではないのでしょうか。

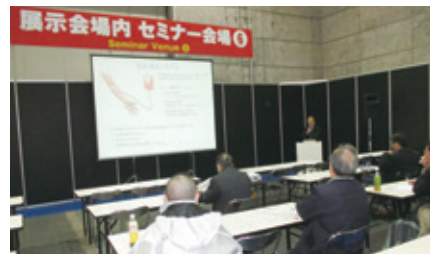
ご参加・ご協力いただきました皆様、誠にありがとうございました。

「メディカルジャパン2015大阪」に参加

2月4、5、6日に関西では初めての開催となる医療総合展「メディカルジャパン2015大阪」がインテックス大阪において開催されました。我が奈良県立医科大学もこのメディカルジャパンに参加し、アカデミックフォーラムで、ブース展示及び口頭発表を行いました。

メディカルジャパン全体では723社の企業出展があり、アカデミックフォーラムでは78名の研究者が最先端の研究について発表を行い、会場は立ち見も出るほど熱気がありました。本学からは化学の酒井宏水教授が「人工赤血球（ヘモグロビン小胞体

製剤の新しい利用法」と題して発表し、製薬メーカーやバイオ企業と名刺交換を行いました。他の研究者の発表に刺激を受けたり、来場者との交流を行うことで共同研究や今後の産学連携の発展が期待できます。



ACT japan meets 未来医療交流会で赤羽学准教授が発表

ACT ジャパン（日本橋渡し研究アライアンス）と、文部科学省橋渡し研究加速ネットワークプログラム（大阪大学「TR実践のための戦略的高機能拠点整備」）の主催による ACT japan meets 未来医療交流会が大阪大学銀杏会館で1月30日に開催されました。

この交流会で本学から赤羽学准教授（健康政策医学講座）が採択を受けている拠点支援課題（拠点シーズA：「同種移植が可能で保存及び輸送性に優れた骨形成細胞シートの開発」）を発表しました。

拠点シーズAは、臨床研究への橋渡しのための知財確保を目

指す試験研究課題が対象で、その取組みに対して研究支援されるものです。未来医療交流会では大阪大学などで実施中の臨床研究を目指した研究者、製薬企業・再生医療関係者など多くの参加があり、熱心なディスカッションが行われました。



大和漢方医学薬学センターからのお知らせ

第3回大和漢方医学薬学セミナーの開催

1月11日（日）に厳樞会館大ホールにおいて、株式会社ツムラとの共催による第3回大和漢方医学薬学セミナーを開催しました。このセミナーは、昨年度の初級編からスタートし中級・上級編と3部構成で実施するものです。今年度は、中級編「応用編：中級者のための漢方セミナー」と題して中級レベルの漢方専門医師を対象に実施しました。

藤本眞一教育開発センター教授からの説明に続いて、本学大和漢方医学薬学センター副センター長の渡辺賢治特任教授から「漢方応用のコツ」、「診断の実技（腹診・脈診・舌診）」、「症例検討」、「総括・質疑応答」などの講義が行われ、診察法の講義では、証の考え方や腹・脈・舌などの診察方法講義の後、診断実技も行われました。症例検討では、最適と考えられる処方を受講の先生方から発表いただき、最後の質疑応答では、受講された先生方と講師の渡辺先生との間で診察法や漢方処方などについて熱心な質疑応答が交わされました。



渡辺特任教授（大和漢方医学薬学センター 副センター長）



当日は、10時～16時までの長時間のセミナーでしたが本学附属病院ほか県内外の医療機関から33名が受講されました。今後も受講者のニーズも確認しながら種々のセミナーを開催していく予定です。



第1種感染症受入訓練を行いました

1/26

平成 27 年 1 月 26 日、エボラウイルス感染症患者の受入訓練が行われました。訓練は、西アフリカのギニアでエボラウイルス感染症の患者と接触のあった女性看護師が帰国後に発熱したという想定で、当院に加え市立奈良病院や県内各保健所、県警など関係機関から約 75 人が参加する大規模訓練でした。訓練後、院内の対応だけでなく様々な機関との連携を確認することができました。当院は県内で唯一、エボラウイルス感染症に対応できる第 1 種感染症指定医療機関です。西アフリカにおけるエボラウイルス感染症はまだ終息しておらず、今後も気を引き締めていく所存です。



ヒトゲノム・遺伝子解析研究研修会を開催しました

2/9

2 月 9 日 (月)、ヒトゲノム・遺伝子解析研究研修会を開催しました。

この研修会は、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針 [平成 13 年 3 月 29 日 (平成 25 年 2 月 8 日改正) 文部科学省、厚生労働省、経済産業省]」に「すべての研究者は、ヒトゲノム・遺伝子解析研究の実施に先立ち、ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する教育及び研修を受けなければならない。」と規定されていることに基づき開催しました。

講師には、三重大学大学院医学系研究科腫瘍病理学、バイオバンク研究センター助教の石井健一郎先生をお迎えし、「三重大学における生体試料の収集と活用」と題して、個人情報の匿名化や生体試料の一元管理に対する考え方、それに至る過程や苦労話等についてお話いただきました。

今後も定期的に参加していく予定です。



講演いただいた石井健一郎先生

近畿地方DMATブロック訓練を行いました

2/14

総合医療・奈良県DMATコーディネーター会長 西尾 健治

去る 2 月 14 日に奈良県主催で開催された近畿地方 DMAT ブロック訓練の企画・運営を担当いたしました。想定は奈良県中南和地域でマグニチュード 7.5 の大地震が発生し、傷病者が多数発生したというものです。大災害においては、多数の傷病者を災害拠点病院などから、SCU というヘリコプターなどが離発着できる基地に集め、そこから被災地外へ出来るだけ多くの患者さんを搬送することが重要となります。そのため、今回は県災害対策本部、SCU、災害拠点病院、現場、消防機関など各部門同士の連携と指揮命令システムの構築を訓練目標といたしました。

訓練は県内各地、香芝 SA、橿原運動公園 (SCU)、4 つの災害拠点病院、十津川診療所など、10 の訓練会場にて行われました。当院も中南和地区を管轄する DMAT 活動拠点本部として参加し、当院に押し寄せてくる被災者を、他府県からの DMAT と当院の医療チームで、救護所を設営して院内入院と院外搬送に分別する訓練を行いました。患者役としては当大学



整形外来にて

の学生 (看護科が主体) も模擬の傷などを作って 200 名以上参加していただきました。被災者の気持ちを理解することで、将来災害医療に興味を持っていただけるものと期待しています。今回の訓練で出来たこと、出来なかったことを確認し、今後いつか来る大災害 (南海大地震など) にそなえていきたいと思えます。

奈良医大ゴルフ部創部30周年記念祝賀会を開催しました

2/15

奈良医大ゴルフ部主将 医学科4年 米田 裕亮

奈良医大ゴルフ部は平成26年度をもちまして、創部30周年を迎えます。これにあたり、平成27年2月15日(日)にリーガホテル大阪のリモネにて祝賀会を開催しました。祝賀会には現役部員と共に19名のOBの先生方が出席され、一番遠い方では北海道の斜里町からはるばる来てくださいました。

また来賓としてゴルフ部部长であり奈良医大精神科教授の岸本年史先生をお迎えし、創部30周年に際しての祝辞をいただきました。

祝賀会では普段はお会いすることのできない先生方からゴルフに関するアドバイスや学生時代の話をお聞かせいただきました。先生方の話も盛り上がり、祝賀会は大盛況のうちに無事に

終わることができました。

また30周年を機に、昭和62年卒の新井邦彦先生を中心として新たにOB会発足準備委員会がつけられました。これからもゴルフ部の活動を通して、OBの先生方との交流を深めていける機会を作ればと考えています。



研修会「ダイバーシティ(多様性)推進が育む快適職場」を開催しました

2/24

2月24日、本学附属病院医療安全推進室と共催で医療安全管理研修会を開催しました。講師には積水ハウス株式会社 経営企画部 ダイバーシティ推進室 室長の伊藤みどり氏をお招きし、「ダイバーシティ(多様性)推進が育む快適職場」というタイトルでご講演いただきました。

積水ハウスは、男性社会と言われる建設業界の中で、女性管理職の積極登用、採用・職域の拡大に努め、女性が働き続けキャリアアップができるような仕組みづくりをされており、人材の多様性を組織の成長に活かすダイバーシティマネジメントに成功されています。

講演では、あらゆる職種・階層に多様な人材を配置することで、多様なニーズに対応することができ、組織の成長につながることを具体的な事例をまじえてお話いただきました。また、自身の経験や失敗を通じて学んだこともふまえ、働く女性にエールを送られました。



終了後のアンケートでは、「全員が当事者意識を持つという言葉に感動しました。難しいけれど必要なことだと思った。」という意見が男性からあり、女性からは「経験談を聞き、勇気づけられた。」「これからも頑張って仕事をつづけていこうと強く思えた。」という前向きな意見が多くありました。

横断的メディカルスタッフ研修会を開催しました

3/4

医療技術センター 副技師長 北村 哲郎

平成27年3月4日、臨床第一講義室において第2回横断的メディカルスタッフ研修会を開催しました。今回は臨床工学技士の小西係長、管理栄養士の山口係長にチーム医療の取り組みについて伝えていただきました。また特別企画として、平成26年度新卒新規採用職員(SSS26)によるグループ発表を行いました。社会に出て1年目のエピソードを交え、学んだことを報告して頂きました。我々にとっては新鮮であり、自身を振り返る良い機会となりました。今後とも、それぞれの専門性を持つ職種

がチームとなり、より良い医療サービスにつなげることをめざし、研修会を進めてまいりたいと思います。



研修会の様子

チェンマイ大学との交流

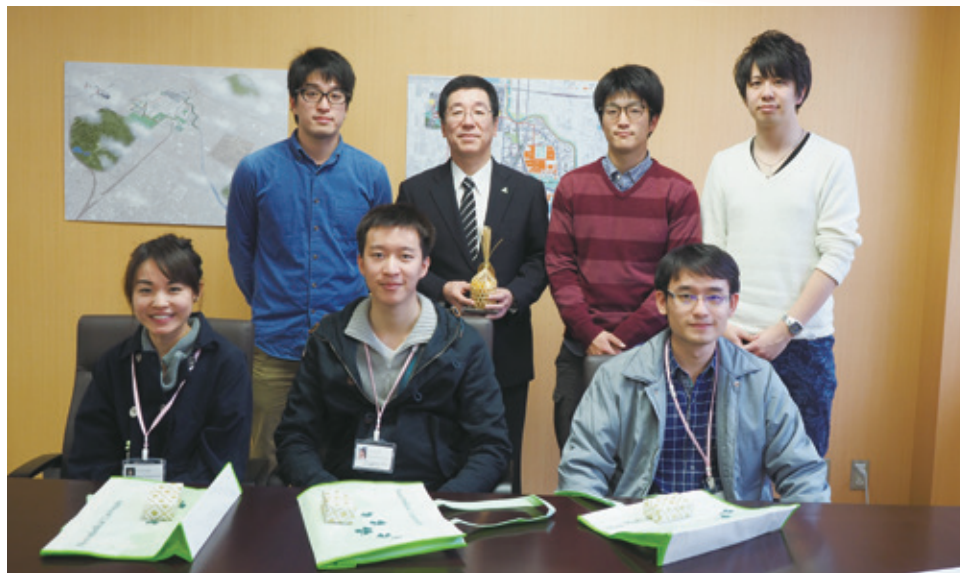
3/16 ~ 26

平成27年3月16日～3月26日までの11日間、タイのチェンマイ大学医学部4年生の学生3名(男性2名、女性1名)が来学しました。初日は学長及び医学部長への挨拶を行い、翌日からは、第二内科学、第三内科学、神経内科学、胸部・心臓血管外科学、産婦人科学、小児科学、第一内科学、消化器・総合外科学、救急医学の9教室で研修を行いました。また、本学の学生とも大いに親睦を深めました。関係教室の先生や職員の方々にご協力いただいたことに深く感謝します。

また、本学からは3月28日～4月5日の日程で、5年生4名(男性4名)がチェンマイ大学を訪れ、現地の医療・医学事情等について研修を行いました。

これらは、本学とチェンマイ大学との間で1996年に締結された学術交流協定に基づくもので、今回の受入及び派遣で16回目となります。

今年もまたチェンマイ大学への交換留学生を募集しますので、チェンマイ大学で学んでみたい学生、興味のある学生の参加を期待します。



「かしはらサイエンスフェスティバル」に参加しました

3/21

平成27年3月21日(土)、橿原万葉ホールで開催された橿原市主催の「かしはらサイエンスフェスティバル」に奈良医大が参加しました。サイエンスフェスティバルは、未来を担う子どもたちに科学にふれてもらい、その楽しさ・魅力を理解してもらう事を目的に開催されています。

奈良医大は「医療と科学」と題して、教育開発センター藤本教授・医学科5年生中務(なかつかさ)さん監修のもと、治療シミュレーターを使用し子どもたちに心臓の音や血圧のはかり方などを指導しました。また、中央手術部からは、手術器具(メス等)の展示もしました。



当日はたくさんのお子どもたちに参加してもらい、医療を肌で感じていただきました。



平成27年4月1日付けで3人の先生に名誉教授の称号が授与されました

澤浦 博 教授(英語)
福井 博 教授(内科学第三)
脇田 満里子 教授(母性看護学)

平成26年度 学位授与の状況

次の33名に博士(医学)の学位が授与されました。(甲は「主科目」を、乙は「所属」を表しています。)

本審査日 平成26年5月13日(火) 5名

(甲) 山田 篤 泌尿器機能制御医学
(乙) 田仲 徹行 消化器・総合外科学
右田 和寛 消化器・総合外科学
弘中 康雄 脳神経外科学
木村 通孝 胸部・心臓血管外科学

本審査日 平成26年7月8日(火) 4名

(乙) 左官 弘和 第一内科学
山本 佳史 第二内科学
松本 憲和 整形外科学
關 匡彦 救急医学

本審査日 平成26年11月11日(火) 10名

(甲) 森川 英子 健康政策医学
榎井 貴史 耳鼻咽喉・頭頸部機能制御医学
(乙) 趙 晶 薬理学
重富 洋志 産婦人科学
竹田 友彦 精神医学
池下 克実 精神医学
谷 満 泌尿器科学
星山 文明 泌尿器科学
三浦 幸子 放射線医学
高濱 潤子 放射線医学

本審査日 平成27年3月6日(金) 14名

(甲) 後田 絢子 侵襲制御・生体管理医学
伊藤 都裕 情報伝達薬理学
堂原 彰敏 消化器病態・内分泌機能制御医学
上田 友哉 循環器・腎臓病態制御医学
中川 仁 循環器・腎臓病態制御医学
後藤 桂 分子腫瘍病理学
胡 英浩 循環・呼吸機能制御医学
中井 靖 泌尿器機能制御医学
(乙) 森岡 崇 第二内科学
篠原 靖司 整形外科学
小畠 康宣 整形外科学
細川 幸成 泌尿器科学
越智 朋子 放射線医学
下村 弘幸 口腔外科学



女性研究者支援センターマネージャーの須崎講師が「国際ソロプチミスト奈良ーあすか」女性研究者賞を受賞しました

ソロプチミスト日本財団では、さまざまな分野で将来性のある研究をしている有能な女性を支援し、さらなる女性の躍進への足掛かりとなる機会を与えることを目的に女性研究者賞を授与されています。この度、「国際ソロプチミスト奈良ーあすか」より女性研究者支援センターマネージャーの須崎康恵講師が「女性医療人の活躍を支えるワークライフバランスのとれた職場環境づくり」という研究テーマで女性研究者賞を受賞しました。



平成26年度(第22回) 中島佐一学術研究奨励賞受賞者決定

奈良県立医科大学において、医学の学術研究に優れた業績等をあげた若手教員を対象とした中島佐一学術研究奨励賞に、10件の応募を頂きました。平成27年3月2日に開催された選考委員会で慎重に審議した結果、次の2名の方々が受賞の栄冠に輝きました。おめでとうございます。

所属	氏名	研究テーマ
神経内科学	杉江 和馬	自己貪食空胞性ミオパチーの疾患概念確立と病態解明に関する研究
泌尿器科学	三宅 牧人	膀胱癌における血管新生因子Angiogeninの分子学的作用機序と新規治療標的分子としての可能性

学会等における論文賞等の受賞一覧

受賞者			賞の名称	受賞論文等	受賞日
所属	職名	氏名			
脳神経外科学講座	学内講師	中川 一郎	Asia Pacific Stroke Conference (APSC) 2014 Best Poster Award	Clopidogrel hyper-response and hypo-response in patients undergoing neuroendovascular treatment. -Contributing factors and antiplatelet management -	平成26年 9月14日
脳神経外科学講座	助教	松田 良介	2013年堀賞(症例報告)	Unilateral Oculomotor Nerve Palsy as an Initial Presentation of Bilateral Chronic Subdural Hematoma: Case Report. Neurol Med Chir (Tokyo)	平成26年 4月12日
脳神経外科学講座	助教	竹島 靖浩	奈良脊髄外科研究会 第8回論文奨励賞	Fusion surgery for recurrent cerebellar infarctions due to bilateral atlantoaxial rotational vertebral artery occlusion.	平成27年 1月31日
県民健康増進支援センター	特任講師	富岡 公子	第35回奈良県公衆衛生学会 優秀演題賞	奈良県在住高齢者における自覚的難聴と高次生活機能との関連-藤原京スタディー	平成26年11月20日
医学部	学生	岩田 直也	第103回日本病理学会 優秀演題賞	脂肪酸によるマイクロRNA発現と癌幹細胞性の変化	平成26年 4月26日
眼科学講座	助教	西 智	第34回日本弱視斜視学会賞(中川賞)	Choroidal thickness in children with hyperopic anisometropic amblyopia	平成26年11月30日
眼科学講座	助教	西 智	第26回日本神経眼科学会学術賞	Cace of unilateral optic nerve hypoplasia with contralateral optic pathway hypoplasia	平成26年12月13日
眼科学講座	社会人大学院生	辻中 大生	第87回日本生化学会大会 若手優秀発表賞	最終糖化産物は傷害を被った網膜色素上皮細胞の細胞増殖をVEGF発現亢進を介して引き起こす	平成26年10月15日
皮膚科学講座	助教	宮川 史	平成26年度日本皮膚科学会基礎医学賞(資生堂寄付)	SLEの発症機序に対するIRF7転写因子の役割の解明	平成26年 5月31日
放射線医学講座	助教	西尾福英之	Society of Interventional Radiology (SIR2014) [JVIR Editor's Award for Outstanding Clinical Research Paper]	Transcatheter arterial chemoembolization using cisplatin powder mixed with degradable starch microspheres for colorectal liver metastases after FOLFFOX failure: results of phase I / I study	平成26年 3月27日
中央内視鏡・超音波部	講師	丸上 永晃	第73回日本医学放射線学会総会「CyPos賞 教育展示優秀賞」	新ガイドライン2012に基づく膵 IPMN / MCNの画像診断	平成26年 4月13日
放射線医学講座	診療助教	丸上 亜希	第27回日本腹部放射線学会「打田賞 展示部門(泌尿生殖器系)」	肺と両側副腎に腫瘍を生じたメトトレキサート関連リンパ増殖性疾患の1例	平成26年 6月28日
放射線医学講座	助教	伊藤 高広	第22回日本がん検診・診断学会総会「優秀ポスター賞」	胃がんX線検診におけるリスクを考慮した読影基準・指示区分-奈良県の試み-	平成26年 7月27日
放射線医学講座	留学生	Suradech Suthiphosuwarn	The 15th Asian Oceanian Congress of Radiology (AOQR2014) [Scientific Exhibition Bronze Award]	Histogram analysis of the characteristics of adjacent brain tissue after placement of carmustine wafers: Comparison of diffusivity, blood volume, and contrast enhancement with cases without carmustine wafer placement	平成26年 9月28日
放射線医学講座	医員	宮坂 俊輝	第50回日本医学放射線学会秋季臨床大会「学術展示優秀賞 Bronze Medal」	Application of CT myelography using dual-energy CT as a diagnostic method in intracranial hypotension syndrome: a report of three cases	平成26年 9月28日
放射線医学講座	助教	西尾福英之	The 100th Scientific Assembly and Annual Meeting of the Radiological Society of North America (第100回北米放射線学会)「Cum Laude Award」	Technical Recommendations for Intra-arterial Therapy in Rat Liver Tumor Model	平成26年12月 5日
泌尿器科学講座	准教授	田中 宣道	第29回ヨーロッパ泌尿器科学会総会ベストポスター賞	Comparison of overall survival between the life expectancy and the estimated outcome in patients who underwent radical nephrectomy for renal cell carcinoma	平成26年 4月14日
泌尿器科学講座	助教	三宅 牧人	奈良県医師会 学術奨励賞	膀胱癌・前立腺癌におけるchemokine (C-X-C motif) ligand 1 (CXCL1)の役割と治療標的分子としての可能性	平成26年 7月19日
泌尿器科学講座	助教	三宅 牧人	University of Hawaii Cancer Center The Center's October 2014 Award for "Publication of the Month"	Angiogenin promotes tumoral growth and angiogenesis by regulating matrix metalloproteinase-2 expression via theERK1/2 pathway (Oncogene.2014.February24;doi:10.1038/onc.2014.2)	平成26年10月20日
地域健康医学講座	講師	岡本 希	平成26年度武見奨励賞	地域在住高齢者における認知機能障害と歯周病との関係	平成26年12月13日
地域健康医学講座	助教	大林 賢史	第12回日本時間生物学会学術奨励賞	光曝露量およびメラトニン分泌量に関する時間疫学研究	平成26年11月 9日
麻酔科学講座	医員	赤崎 由佳	米国神経麻酔学会 Travel Award	Evaluation of Feasibility and Reliability of Intraoperative Visual Evoked Potential Monitoring During Craniotomy	平成26年10月 7日
集中治療部	助教	恵川 淳二	米国神経麻酔学会(SNACC) Young Investigator Award, Travel Award	Neuron-targeted Caveolin-1 Remodels Hippocampal Neurons and Enhances Hippocampal Plasticity and Cognition	平成26年10月17日
集中治療部	助教	恵川 淳二	米国神経麻酔学会 Best abstract (優秀発表賞)		
口腔外科学講座	助教	柳生 貴裕	第33回日本口腔腫瘍学会学術大会ポスター賞	CK13,CK17,Ki-67免疫染色は、口腔上皮内腫瘍(OIN)の癌化を予測するか?	平成27年 1月30日
口腔外科学講座	助教	堀田 聡	顎顔面インプラント学会 優秀論文賞	下顎臼歯部において骨質とインプラントの長さ、直径が周囲骨のひずみ分布に及ぼす影響	平成26年11月30日
産婦人科学講座	助教	棚瀬 康仁	第54回日本産科婦人科内視鏡学会学会賞(ビデオ部門応募演題)	直腸癌手術の腹腔鏡下側方郭清から学ぶ ～より確実な腹腔鏡下骨盤リンパ節郭清術を目指して～	平成26年 9月13日
産婦人科学講座(MFICU)	助教	吉元 千陽	第36回日本エンドメトリオーシス学会演題発表賞(臨床部門)	チョコレート嚢胞の癌化の早期発見法	平成27年 1月25日
産婦人科学講座(MFICU)	助教	赤坂珠理晃	第46回国際妊娠病態生理学会および第35回日本妊娠高血圧学会 Young Doctor Award	Inflammatory cascade in adipose tissue under new culture method with preclamptic serum	平成26年 9月20日
整形外科科学講座	診療助教	仲西 康顕	JOS Best Paper Award	Intra-avicular distal radius fractures involving DRUU	平成26年 5月21日
整形外科科学講座	大学院生	岩田栄一朗	第42回日本脊椎椎間病学会優秀論文	脊髄髄膜症と脊髄神経鞘腫の単純MRI像での比較検討	平成26年 2月 1日
内科学第三講座	研修医	小川 裕之	第100回日本消化器病学会支部例会 奨励賞	内視鏡下生検を契機に出血性胃潰瘍を呈し胃MALTリンパ腫に合併した限局性胃アミロイドーシスの1例	平成26年 3月 7日
内科学第三講座	助教	野口 隆一	平成26年度日本肝臓学会研究奨励賞	Dual blockade of angiotensin- II and aldosterone suppresses the progression of a non-diabetic rat model of steatohepatitis	平成26年 5月29日
内科学第三講座	准教授	吉治 仁志	ILCA国際肝臓学会 Top scored abstract	Combined treatment of low dose sorafenib and dincally available safety agent: angiotensin- II receptor blocker significantly attenuated the hepatocarcinogenesis via angiogenesis suppression in the rat	平成26年 9月 5日
内科学第三講座	診療助教	瓦谷 英人	平成26年度日本エンドトチン自然免疫研究会最優秀奨励賞	脂肪性肝炎モデルにおける自然免疫系の解析とサイトカイン産生調整薬による新規治療法の開発	平成26年12月 6日
消化器・総合外科学講座	医員	右田 和寛	第47回奈良外科学会 優秀演題賞	リスク因子解析に基づいた胃切除後surgical site infection 防止対策の実践	平成26年 4月19日
消化器・総合外科学講座	医員	右田 和寛	第52回日本癌治療学会学術集会 優秀演題賞	ヒト食道扁平上皮癌におけるherpesvirus entry mediator (HVEM)関与の重要性	平成26年 8月28日
消化器・総合外科学講座	准教授	庄 雅之	第52回日本癌治療学会学術集会 優秀演題賞	肺癌に対する長期予後からみた術前化学放射線治療の適応に関する検討	平成26年 8月29日
消化器・総合外科学講座	准教授	庄 雅之	第52回日本癌治療学会 優秀演題賞	大動脈周囲リンパ節転移性肺癌の手術成績・多施設共同研究822例の解析結果	平成26年 8月30日
消化器・総合外科学講座	医員	西和田 敏	第22回日本消化器関連学会週間JDDW2014優秀演題賞	ヒト肺癌におけるNectin-4腫瘍発現の臨床病理学的意義	平成26年10月26日
消化器・総合外科学講座	診療助教	北東 大督	第13回和歌山・奈良外科セミナー 奨励賞	大腸癌肝転移の外科治療における臨床研究および肝細胞癌の腫瘍免疫からみた基礎研究	平成27年 1月17日

Information

高血圧市民公開講座

開催日：5月17日(日) 13:00～15:00
 場所：なら100年会館
 概要：世界高血圧の日にちなんで、市民の皆様が高血圧という病気を知ってもらい、予防につなげる。
 講演者：①フリーアナウンサー 山本 浩之 氏
 ②大阪大学 楽木 宏実 教授
 ③奈良県立医科大学 齋藤 能彦 教授
 対象：一般市民400名(※参加費無料、申込不要)
 問合せ先：認定NPO法人 日本高血圧協会
 TEL.06-6350-4710

市民公開講座「しなやかな心の世界をかたる」

開催日：6月6日(土) 14:00～15:30
 場所：グランフロント大阪 北館(地下2階)
 概要：一般市民に精神疾患やそれに関する問題について広く知ってもらうために、著名な二人の精神科医に講演を行っていただきます。
 講演者：①香山 リカ 精神科医・立教大学教授
 ②きたやま おさむ 精神科医・作詞家
 対象：一般市民300名(※入場無料、事前申込不要)
 問合せ先：精神医学教室(内線3461)

2015年度奈良県肝臓撲滅市民公開講座

「肝臓病を克服する」

開催日：6月6日(土) 15:00～17:30
 場所：橿原文化会館 1階 小ホール
 概要：肝臓病についての最新の情報・治療などを市民にわかりやすく説明する。
 講演者：野口 隆一 第3内科助教
 浪崎 正 第3内科助教
 守屋 圭 第3内科助教
 対象：市民300名(※入場無料、申込不要)
 問合せ先：第3内科医局(内線3415)

平成27年特別講演「排尿および性機能と臓器血流」

開催日：6月25日(木) 17:00～18:00
 場所：臨床講義棟 第1講義室
 概要：過活動膀胱など下部尿路症状、前立腺肥大症や勃起不全は高

血圧が危険因子です。SHR(Spontaneously hypertensive rat)では骨盤内臓器や陰茎の慢性虚血が生じ、排尿筋過活動、前立腺の過形成と陰茎海綿体の弛緩不全が生じます。最新データを供覧し、血流の観点から見た排尿および性機能障害の原因と治療の可能性について解説します。

講演者：高知大学医学部薬理学講座 教授 齋藤 源頭 先生
 対象：本学4・5年生、大学院生、職員 200名程度
 問合せ先：泌尿器科医局(内線3439)

奈良の歴史にみる福祉と看護

開催日：8月6日(木) 13:00～14:30
 場所：奈良県文化会館 国際ホール
 概要：第46回日本看護学会-看護教育-学術集会 特別講演として。
 講演者：西山 厚 氏 (帝塚山大学 文学部 教授)
 対象：一般県民100名(※事前申込必要)
 問合せ先：奈良県看護協会 TEL.0744-25-4014

女性ヘルスケア公開講座(仮)

開催日：8月29日(土) 14:00～16:00
 場所：奈良商工会議所 大ホール
 概要：女性ヘルスケア・大豆イソフラボン代謝物エクオールの可能性(仮)
 講演者：奈良県立医科大学附属病院 女性専用外来 島本 太香子先生
 対象：一般人150名(※入場料無料、参加申込方法については検討中)
 問合せ先：産婦人科学教室(内線3429)
 大塚製薬(株) ニュートラシューティカルズ事業部
 TEL.06-6441-6532

高齢者・家族のためのサロン

開催日：毎月第2水曜日 13:30～15:00
 場所：かしはら万葉ホール 視聴覚室
 概要：5月13日 作業療法健康増進講座
 6月10日 音楽療法
 7月 8日 趣味と健康 運動機能チェック
 8月12日 セラピューティック・レクリエーション
 講演者：奈良県立医科大学老年看護学教員 等
 対象：高齢者とそのご家族 毎回約50名
 (※参加無料、Fax・メール・電話で申込)
 問合せ先：老年看護学教室(内線2766)
 sawami@naramed-u.ac.jp

平成27年度入学試験を実施しました

医学部医学科は推薦選抜、一般選抜(前期日程・後期日程)において合計1,772名の志願者があり、113名が入学することとなりました。また、第2年次編入学試験では26名の志願者があり、3名が入学することとなりました。

一方看護学科では、推薦選抜、社会人特別選抜、一般選抜(前期日程・後期日程)において合計302名の志願者があり85名が入学することとなりました。

平成27年度入試結果

区分		募集人員	志願者数(A)	受験者数	合格者数(B)	追加合格者数(Bの内数)	入学者数	志願倍率(A/B)	前年度倍率
医学科	推薦(緊急医師確保)	13	200	188	13	0	13	15.4	10.7
	推薦(地域枠)	25	197	193	25	0	25	7.9	9.0
	前期	22	304	277	22	0	22	13.8	12.0
	後期	53	1,071	376	56	3	53	19.1	21.2
	編入学(研究医枠)	2	3	3	2	0	2	1.5	1.5
	編入学	1	23	23	1	0	1	23.0	3.5
	小計	116	1,798	1,060	119	3	116	15.1	16.0
看護学科	推薦(地域枠)	30	71	71	30	0	30	2.4	2.2
	社会人	5	16	13	5	0	5	3.2	4.0
	前期	40	155	151	40	0	40	3.9	2.2
	後期(地域枠)	10	60	36	10	0	10	6.0	4.8
	編入学(地域枠)	5	2	2	0	0	0	-	1.5
	小計	90	304	273	85	0	85	3.6	2.6
医学部	合計	206	2,102	1,333	204	3	201	10.3	9.6

学報編集委員会 からのお知らせ

寄稿記事募集案内

「学報」では、奈良県立医科大学や附属病院に関する出来事、お知らせ等を掲載致しておりますが、これらに関連する記事を皆様からも広く募集いたします。

ご興味のある方は内線2206までお問い合わせください。

なお「学報」は毎年1、4、7、10月に発行しており、本学教職員・学生のみならず本学同窓会会員や関連大学・病院等にも配布しております。



レポート

第24回 役員会(1月7日)

- 1 教育研究審議会予定案件を承認
(1)教員の人事について
(2)共同研究講座設置・管理等に関する基本方針の一部改正について
(3)外国人客員研究員の受入れについて
- 2 嘱託職員、日々雇用職員計3名の定年延長を承認
- 3 看護職員採用試験において一般1名の合格者を決定

第11回 教育研究審議会(1月8日)

- 1 看護学科における領域の新設ならびに教員定数の配置を審議
- 2 診療助教制度に関する実施要領の改正を審議
- 3 教員の人事について、12月31日付け退職、2月1日付け昇任を審議
- 4 共同研究講座設置・管理等に関する基本方針の一部改正を審議
- 5 教員の海外留学について、学内講師1名の新規を承認
- 6 台湾から客員研究員1名の新規受入れを報告

第25回 役員会(1月8日)

- 1 教育研究審議会の審議結果を審議・決定

第26回 役員会(2月4日)

- 1 教育研究審議会予定案件を承認
(1)教員の人事について
(2)任期制教員の再任審査について
(3)各種委員会の委員改選について
(4)職員証の導入及び職員証規程の制定について
(5)公的研究費の不正使用防止に係る諸規程の整備について
- 2 公印規程の改正を承認
- 3 役員会招集日(平成27年4月から平成27年9月)を決定
- 4 個人情報の部分開示決定に関する異議申立への対応を承認
- 5 看護職員採用試験において一般1名の合格者を決定
- 6 平成27年度県予算の内示状況を報告

第12回 教育研究審議会(2月5日)

- 1 教員の人事について、2月28日付け退職、3月1日付け採用及び昇任を審議
- 2 3月31日付けで任期満了となる任期制教員のうち再任申出のあった教員9名の再任を審議
- 3 委員の任期が平成27年3月31日である各種委員会について、理事長、学長が任命する委員を理事長、学長選任の一任することを審議
- 4 職員証の導入及び職員証規程の制定を審議
- 5 公的研究費の不正使用防止に係る諸規程の整備を審議

第27回 役員会(2月5日)

- 1 教育研究審議会の審議結果を審議・決定

第13回 (臨時)教育研究審議会(2月17日)

- 1 英語教授候補者としてBolstad,Francesco Aquila氏を決定し、役員会に答申

第28回 役員会(2月18日)

- 1 教育研究審議会予定案件を承認
(1)第二期中期計画 平成27年度計画の策定について
- 2 英語教授候補者としてBolstad,Francesco Aquila氏を承認
- 3 平成27年度の組織編制及び事務の機能強化を承認
- 4 平成26年度の財務状況(12月末現在)を報告
- 5 (仮称)中央手術棟整備工事進捗状況及び供用開始見込を報告

第29回 役員会(3月4日)

- 1 教育研究審議会予定案件を承認
(1)教員の人事について
(2)特任教員配置申請及び特任教員の人事について
(3)名誉教授称号授与について
(4)教養教育部門の改編等に伴う諸規程改正について
(5)学校教育法改正に伴う学則等諸規程の改正(案)について
(6)独立行政法人国立循環器病研究センターとの教育研究に関する連携・協力協定書の締結について
(7)奈良県立医科大学寄附講座規程及び寄附講座設置・管理等に関する基本方針の一部改正について
(8)ベトナム保健省と「関西公立医科大学・医学部連合」等の医療・健康分野に関する包括協力協定の調印について
- 2 平成27年度予算案を承認
- 3 看護職員採用試験において一般4名の合格者を決定
- 4 平成26年度決算見通しを報告

第14回 教育研究審議会(3月5日)

- 1 教員の人事について、3月31日付け退職、4月1日付け採用、昇任及び学内配置換え、4月16日付け採用、地域医療学講座における3月31日付け退職、4月1日付け配置換え及び昇任並びに教養教育部門の新設に伴う所属変更を審議
- 2 特任教員配置申請及び特任教員の人事について、県民健康増進支援センター他、計8件の配置申請及び12名の配置を審議
- 3 英語、澤浦教授、第三内科学 福井教授、母性看護学 脇田教授に対する名誉教授の称号授与を審議
- 4 臨床教授等の称号付与を審議
- 5 教養教育部門の改編等に伴う諸規程改正を審議
- 6 学校教育法改正に伴う学則等諸規程の改正(案)を審議
- 7 第二期中期計画 平成27年度計画の策定を審議
- 8 独立行政法人国立循環器病研究センターとの教育研究に関する連携・協力協定書の締結を審議
- 9 奈良県立医科大学寄附講座規程及び寄附講座設置・管理等に関する基本方針の一部改正を審議

- 10 ベトナム保健省と「関西公立医科大学・医学部連合」等の医療・健康分野に関する包括協力協定の調印を報告

第30回 役員会(3月5日)

- 1 教育研究審議会審議結果を審議・決定

第31回 役員会(3月18日)

- 1 教育研究審議会予定案件を承認
(1)教員の人事について
(2)寄附講座の設置について
(3)寄附講座の設置期間の延長について
(4)寄附講座教員の人事について
(5)病院教授について
(6)経営審議会規程及び教育研究審議会規程の一部改正について
(7)未来への飛躍基金規程の制定及び関係規程の改廃について
(8)教育改革2015(案)について
(9)看護学科第3年次編入学科試験の廃止について
(10)学科目及び講座の設置に関する規程及び医学部学務委員会規程の新設等について
- 2 平成27年度組織体制を承認
- 3 組織改正、給与改定等に伴う規程改正を承認
- 4 第二期中期計画 平成27年度計画を承認
- 5 平成27年度予算の概要を承認
- 6 職員採用試験において、障害者雇用推進担当1名の合格を決定
- 7 職員採用試験において、正規職員登用職員2名の合格を決定

第15回 (臨時)教育研究審議会(3月26日)

- 1 教員の人事について、3月31日付け退職、4月1日付け採用、4月1日付け昇任を審議
- 2 寄附講座の設置を審議
- 3 寄附講座の設置期間の延長を審議
- 4 寄附講座教員の人事について、血拴制御医学講座における4月1日付け更新、友友病治療・病態解析学講座における4月1日付兼務及び採用を審議
- 5 教授規程の一部改正を審議
- 6 4月1日付けで准教授1名に対する病院教授の称号付与を承認
- 7 4月1日付けで准教授1名に対する研究教授の称号付与を承認
- 8 教養教育部長に指名された化学教授 酒井宏水氏を審議
- 9 教育研究審議会規程の一部改正を審議
- 10 未来への飛躍基金規程の制定及び関係規程の改廃を審議
- 11 臨床教授等の称号付与を審議
- 12 看護教育講師の称号付与を審議
- 13 教育改革2015(案)の策定を審議
- 14 看護学科第3年次編入学科試験の廃止を審議
- 15 学科目及び講座の設置に関する規程及び医学部学務委員会規程の新設等を審議

第32回 (臨時)役員会(3月26日)

- 1 教育研究審議会審議結果を審議・決定
- 2 給与改定等に伴う規程改正を審議・決定
- 3 保育園運営規程の一部改正を審議・決定
- 4 病院規程の一部改正を審議・決定

メディア掲載情報をお寄せください ～学報紙面で紹介します～

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、記事を掲載された教職員・学生をこの「学報」紙面で紹介します。

掲載者	掲載メディア	掲載概要
今村 知明 教授 (健康政策医学)	産経新聞 2015年1月8日(木)朝刊	今村教授は厚生労働省の食品防御の研究班で研究代表者を、マルハニチロ農業混入事件では第三者検証委員会の座長を務めています。食品防御の識者として、マクドナルドに端を発した異物混入事件について、食品防御の識者としてのコメントが放映、または掲載されました。
	日本経済新聞 2015年1月8日(木)朝刊	
	朝日新聞 2015年1月8日(木)朝刊	
	毎日新聞 2015年1月18日(日)朝刊	
	朝日新聞 2015年1月29日(木)朝刊	
	毎日新聞 2015年2月4日(木)朝刊	
	テレビ朝日 2015年1月9日(金) 8時～モーニングバード	
	TBSテレビ 2015年1月16日(金) 17時23分頃～「Nスタ」	
	RCC中国放送 2015年1月13日(火) 7時頃～「本名正憲のおはようラジオ」	
	NHK岡山 2015年1月23日(金) 「岡山ニュースもぎたて「金ダイチ」」	
	THE PAGEサイト 2015年1月22日(木)配信	
	Yahoo!ニュース配信ページ 2015年1月22日(木)配信	
	週刊ポスト 2015年1月16日(金)	

学報バックナンバーは [web サイト上でもご覧いただけます。](http://www.naramed-u.ac.jp/info/introduction/magazine.html)
(<http://www.naramed-u.ac.jp/info/introduction/magazine.html>)

編集後記

新入生や新しく本学や附属病院に就職された職員のみなさんを迎えて奈良医大は活気にあふれています。さて、「初心忘れず」です、これは能楽の観世流の世阿弥の言葉として有名です。能楽は古い歴史を持ちます。近鉄結崎駅から徒歩で20分ほどのところに観世流発祥の地として面塚(めんづか)がありますが、世阿弥の父である観阿弥が結崎座を立てたのは14世紀半ばです。この言葉は、物事を始めた時の気持ちや意欲を忘れてはならないという意味もありますが、世阿弥のいうところは、初心者から年盛り、老後に至るまでそれぞれの段階で経験や技量相応の学ぶ初心があるというものです。われわれの日常で大切にしたい言葉の一つです。

- 岸本 年史 (精神医学)
- 藤本 雅文 (物理学)
- 京谷 陽司 (薬理学)
- 藤本 正男 (内科学第三)
- 山名香奈美 (母性看護学)
- 錦 三恵子 (看護部)
- 藤谷 威行 (研究推進課)
- 永井 淳 (教育支援課)
- 吉田 一良 (病院管理課)
- 森田 英之 (総務課・広報室)
- 阪田 聖基 (総務課・広報室)
- (○印は編集委員長)